

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育者論		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	「なぜ人は働くのか」「社会は保育者に何を期待しているのか」という問いに対して、自らの仕事観をからめながら「プロとしての保育者」になるための自己の確立を目指す。	
学年	3年		
コース	－		
開講時期	前期	働く目的と保育哲学、保育現場が求める保育者像、園での保育者の役割と信頼、保育者の仕事の内容と留意点等について学ぶ。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	プロとしての保育者の資質を高める。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「アクティベート保育学02 保育者論」 汐見稔之・大豆生田啓友 監修 ミネルヴァ書房 「保育者論-子どものかたわらに-」 小川圭子 編 株式会社みらい		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育者とは	保育という仕事の本質・特質を考える	
2	保育職とは	魅力的な保育者・子どもの発達に寄り添うとはどういうことか	
3	現在の保育にまつわる課題	少子化・待機児童問題、児童虐待、配慮を要する子どもへの理解と対応について	
4	保育者の役割	保育者の職務内容、初心者・中堅者・管理者の役割について	
5	子どもの内面・発達を理解する	子どもの発達をどう理解するか、保育のなかで子どもの内面と発達を捉える	
6	遊びを援助する保育者①	子どもにとっての「遊び」とは、遊びを援助するとはどういうことか	
7	遊びを援助する保育者②	遊びの中で学んでいること、遊びを援助するとはどういうことか	
8	遊びを援助する保育者③	保育者の願いをどう環境に位置付けるか、安全管理・危機管理について	
9	個と集団を生かす保育者①	個が育ち、集団が育つということ、「個」と「集団」の捉え方	
10	個と集団を生かす保育者②	「個を生かし集団を生かす保育」とはどういうことか	
11	家庭や地域と連携	家庭や地域との連携・支援の必要性(背景)を理解する、支援方法について	
12	多様な子どもの理解	多様性の背景要因を理解する、支援する制度と他機関連携について	
13	教材などを通して学びを深める	教材研究はなぜ必要か、環境を構成する保育者の役割について	
14	成長する保育者と同僚性	同僚性のいみするところ、同僚性の重要性、豊かな同僚性を築くためには	
15	レポート作成	『「プロとしての保育者」になるために、あなたがこれから努力することは何ですか。具体例をあげながら述べよ。』	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	乳幼児保育Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を素地として、3歳未満児の保育・発達過程や特性を踏まえたより実践的な援助や関わりを理解する。3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解するとともに、保育者としてより実践的な保育技術を習得する。多面的な保育の視点を養い、学びを集結し乳幼児の保育計画の作成について理解を深める。	
学年	3年生		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりの意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的な関わりができるように数多くの保育技術を習得する。3歳未満児の保育・発達を踏まえた子どもの生活援助や保育環境の構成及び、子どもの成長発達を促す玩具について演習を行いながら、さらに専門的知識を深めていく。3歳未満児の集団保育における安全や心身の健康管理への配慮の実践を理解し、総合的な視点から乳幼児の指導案作成・実践ができるように学びを深める。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	1. 3歳未満児の保育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「演習で学ぶ乳児保育」 善本真弓編著 わかば社		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	乳児保育の意義	養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について	
2	0～3歳までの発育・発達	個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関わり	
3	食事・排泄の援助	0歳児の保育・発達を踏まえた生活と援助の実践	
4	着脱・清潔の援助	1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践	
5	健康と安全	安全対策や事故防止、アレルギー対応、防災対策の実践	
6	0歳児の保育の内容	遊びの保育内容、保育者の援助について	
7	1～3歳未満児の保育内容	遊びの保育内容、保育者の援助について	
8	乳児保育を支える連携	乳児保育における計画と評価について/まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの健康と安全		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	小児の健康について理解し、保育現場で保健活動が実践できる知識と技術を身につける。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	こどもの保育に対しての危機管理意識を高め、日常的な病気の対応や事故や緊急時における対処方法を理解し、保育現場で対応できる力を養う。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	子どもの健康管理について理解を深め、演習を通して対処の実践力を高める。	
授業担当者	杉浦 美恵子		
実務家教員	○	こども病院にてこどもの医療・保健に携わっていた	
使用テキスト 参考文献	子どもの健康と安全(ななみ書房)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	感染症対策	①感染症の集団発生の予防を学ぶ ②感染症発生時と罹患後の対応を学ぶ	
2	保育における健康及び安全の管理	①衛生管理(屋内・屋外) ②事故防止及び安全対策 ③危機管理 ④災害への備えについて学ぶ	
3	子どもに起こりやすい体調不良とケア	発熱・嘔吐・下痢・咳・腹痛・便秘・発疹・頭痛について学ぶ	
4	3歳児未満児の養護の実際	①抱っこ・おんぶ・寝かせ方・衣服の着脱・身体の清潔保持について学ぶ ②保育所でのSIDSへの対応を学ぶ ※授業 2号館2階介護実習室	
5	3歳児未満児の養護の実際	沐浴実習を行う 授業 2号館2階入浴実習室 ※首からかけられるスポーツタオル 半袖シャツ ズボン	
6	応急処置・救急法	①子どもに起きやすい事故の応急手当について学ぶ ②包帯・三角巾を使って演習を行う ※持ち物三角巾	
7	配慮を要する子どもへの対応について	①配慮を要する子どもへの対応 ②障害のある子どもへの対応を学ぶ	
8	試験	まとめ・試験	

シラバスデータ			2026/4/
科目名	子育て支援		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育の専門性を活かした子育て支援の方法を身に付け、身近な子育て支援の方法を身に付け、身近な子育て支援の現状を理解する。保育所・認定こども園などにおいて保育者が行う子育て支援の理論や方法について学び理解を深める。	
学年	3年生		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	現在の日本社会では少子化・核家族化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっています。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしています。そこで、本授業では、主に子育て支援における現状とその支援のあり方について学ぶ。さらに、保育士に子育てにおける多様な相談援助が求められる状況を理解し、具体的な実践力について演習を通して高めていく。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	1. 保育士の行う相談支援について、その内容と展開を理解できるようになる。 2. 相談支援について、様々な場や対象に即した支援方法を、実践例を通して理解できるようになる。	
授業担当者	杉山有美	3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を。実践事例を通して具体的に理解できるようにになる。	
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「学び・わかる・みえる 演習・保育と子育て支援」 株式会社みらい		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育と子育て支援	子育て支援とソーシャルワーク、保育士として子育て支援にかかわるために必要なことについて	
2	子どもの権利と子育て支援	子どもの権利を守る取り組み、子どもの最善の利益を考慮した保育について	
3	保育の専門性と子育て支援	保育者に求められる専門性、保育現場における子育て支援の内容について	
4	子育て支援にける計画・記録・評価	計画の必要性と計画策定の方法、評価の必要性と評価方法について	
5	保護者との信頼関係の構築	信頼関係を築く需要と共感的理解、保護者の理解とかかわり方について	
6	子育て支援の実際①	保育所の特性を生かした保護者の支援について	
7	子育て支援の実際②	特別な支援を必要とする保護者への支援について	
8	子育て支援の実際③	問題・課題のある保護者への支援について／まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実践演習		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育士として必要な知識・技能を習得したかを確認し、今後の課題を見出す。そして、保育士として勤務することについて具体的にイメージし、自分なりに将来の展望を描く。以上の取り組みを通じて保育者としての資質向上を図り、保育職に従事するという自覚と意欲を高める。	
学年	3年		
コース	－		
開講時期	前期	保育に関わる専門的学修を振り返り、保育士としての資質・知識・技能を修得したことを確認するとともに、子どもや保護者に対する援助の技術・方法等について課題を掲げてグループ討議やプレゼンテーションによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	1. 保育に関する科目横断的な学習能力を修得する。 2. 保育に関する現代的課題について現状分析・考察する力をつける。 3. 問題解決のための具体的な対応・判断方法等を見つけ出す力をつける。 4. 保育に関わる自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「これまでの学びと保育者への歩み」小櫃智子・矢藤誠慈郎 著 「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育者を目指して	ガイダンス／保育者を目指す自己の振り返りと思い描く保育者像について考える	
2	保育者の実践的力について	保育者に求められる資質・専門性について学ぶ	
3	子ども理解の方法と実際について①	保育実習Ⅱを振り返り、反省・学びの多かったエピソードをまとめる グループで共有し、共有できる点や問題点などを考察する	
4	子ども理解の方法と実際について②	発表／教育実習に向けて、学んでくるべきこと、心構え等をまとめる	
5	気になる子どもの行動の理解と対応について①	保育現場で必要な配慮について学ぶ／気になる子どもに合わせた保育教材を考える	
6	気になる子どもの行動の理解と対応について②	“自分の見方”を自覚し、見つめる。育ちへの願いについて考える	
7	教育課程について	保育の目標とカリキュラムについて学ぶ	
8	教育課程および全体的な計画	グループワーク:保育園のパンフレット作成する	
9	保育内容と保育の方法について	保育内容の基準・保育の方法について学ぶ	
10	諸外国の保育内容について	日本でも実践されている諸外国の保育方法について学ぶ	
11	指導計画について①	グループワーク:3歳児、4歳児、5歳児に合わせた活動を考え指導計画(指導案)を作成する	
12	指導計画について②	グループワーク:3歳児、4歳児、5歳児に合わせた活動を考え指導計画(指導案)を作成する	
13	模擬保育①	保育実践:模擬保育	
14	模擬保育②	保育実践:模擬保育／振り返り	
15	保育者の専門性について	保育者の専門性と保育者の成長について学ぶ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	ピアノ技術Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・教育実習及び保育の現場で役立つ技術や表現力の獲得を目標とする。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の現場に必要な基本的なピアノ奏法の取得を目指して、幼児歌曲などの弾き歌いをを用いて学ぶ。それぞれのレベルが異なるため、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:毎回授業の中で、進捗状況を確認します。各自の課題曲を練習する。(各回2時間程度) 復習:毎回次回までの課題曲を提示します。授業までに弾けるようにする。(各回2時間程度)		
取得単位数	2単位	指定の弾き歌い3曲を演奏できるようにする。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト　こどものうた200　小林美美著 実用こどものうた　田口雅夫・高崎和子共編		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	課題曲の提示…弾き歌い　教育実習先からの課題曲、その他こどもの歌。	
2	ピアノ実技 弾き歌い実践	各自、課題曲の練習および担当教員との個別指導を行う。	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「音楽表現」(実践演習)		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。	
授業回数	5回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習: 毎回授業の中で、進捗状況を確認します。各自の課題曲を練習する。(各回2時間程度) 復習: 毎回次回までの課題曲を提示します。授業までに弾けるようにする。(各回2時間程度)		
取得単位数	2単位(3年間)	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。	
授業担当者	小関 宏美		
実務家教員	○	高等学校音楽教諭及び非常勤講師として芸術科音楽の指導経験、カルチャースクール講師として童謡唱歌講座の指導経験	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	スクーリングにおける受講態度や実技・技能評価、単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	模擬保育「いろいろな音を集めて遊ぼう」の実践と指導案の討議	弾き歌い・伴奏法の実践	
2	模擬保育「わらべうた・伝承遊びをたのしむ」の実践と指導案の討議	わらべうたや伝承遊び弾き歌い・伴奏法の実践	
3	模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導法の討議	模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践	
4	「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解	保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践	
5	教科「音楽」への接続	小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと音楽Ⅲ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・ピアノ技術や表現の獲得を目標とする。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	基本的なピアノ奏法の取得を目指し、グレード試験を実施する。確実にピアノ技術を身につけていけるよう、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習: 毎回授業の中で、進捗状況を確認します。各自の課題曲を練習する。(各回2時間程度) 復習: 毎回次回までの課題曲を提示します。授業までに弾けるようにする。(各回2時間程度)		
取得単位数	2単位	グレード試験を2回実施し、より上級を目指す。 6級取得を目指し、達成している場合はより上級を目指す。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「バイエル」・「ブルグミュラー」・「ソナチネ」 全音楽出版社		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ピアノ実践	○グレード試験 10級 バイエル: 30～60番 9級 バイエル: 61～90番 8級 バイエル: 100～104番 7級 ブルグミュラー: 1～14番 6級 ブルグミュラー: 15～20番 5級 ブルグミュラー: 21～25番 4級 ソナチネ: 4番、7番、8番、9番 3級 ソナチネ: 1番、6番、10番、12番 2級 ソナチネ: 2番、3番、5番、11番 1級 ソナチネ: 13番、14番 ○一人ひとりの進捗状況を確認する。 ○採点基準 10級: 40点 9級: 45点 8級: 45点 7級: 50点 6級: 60点 5級: 65点 4級: 70点 3級: 75点 2級: 80点 1級: 80点 完成度: 10点 授業態度: 10点 ○グレード試験は、当日弾く曲を伝え実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教職実践演習Ⅰ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対するの対応力を学ぶ。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	これまでの学習知と教育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	「保育・教職実践演習」上長然、國光みどり著 「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」 「保育者論」小林博久・林信二郎編著 樹村書房		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	授業概要とテーマ説明、授業計画の確認	
2	教師という職業	教職の意義、教師に求められる資質と能力、教師・保育者になる研修研究の必要性	
3	学級経営	学級と学級経営、学級担任制の役割、学級経営案の作り方	
4	特別支援教育の基礎	発達障害とは何か、発達障害の諸障害および知的障害の概要	
5	特別支援教育と教師・保育者	特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応	
6	保育における集団の編成	異年齢保育、統合保育	
7	幼児教育の将来的展望	新しい幼児教育システムと集団保育の方向性	
8	幼保小連携	幼保小連携とは何か、学びと発達の連続性からみた幼保小連携	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教職実践演習Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対するの対応力を学ぶ。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	これまでの学習知と教育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	「保育・教職実践演習」上長然、國光みどり著 「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育者論」小林博久・林信二郎編著 樹村書房		
評価方法	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス／教師いう職業	教職の意義及び教師に求められる資質と能力について	
2	学級と学級経営について	学級・学級経営とは 学級担任の役割と学級経営案の作り方	
3	特別支援教育の基礎	事例研究:実習経験も含めて課題のある子ども(幼児)の研究(グループワーク)	
4	特別支援教育と教師・保育者	「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」について	
5	保育における集団の編成	異年齢保育・統合保育について	
6	幼児教育の将来的展望	新しい幼児教育システムの方向性・集団保育の方向性	
7	「幼少連携」への応用と連携について	小学校教育との接続・小学校との連携の背景	
8	学習のまとめ	自己の振り返りと、今後に向けての課題を明確化する	

シラバスデータ			2026/4/
科目名	こどもの表現と技法Ⅲ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児の生活する姿の中から発達の実情を理解し、適切な環境を幼児の生活に沿って構成し、豊かな感性をはぐくむ幼児の活動が充実するよう援助する方法を学ぶ。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	・幼児が興味関心のある活動を企画する力を身につける。 ・幼児の表現意欲を高めるための環境構成・援助の工夫の方法を身につける。 ・保育の展開を理解し、就職につなげる技術を身につける。	
授業回数	30回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	4単位	こどもの発達に必要な経験が積み重ねられるような環境を考えると共に、人的環境としての保育者の役割の重要性を理解する。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	造形表現	季節(春5～6月)の壁面制作	
2	教育実習に向けての制作①	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 立案	
3	教育実習に向けての制作②	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 制作①	
4	教育実習に向けての制作③	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 制作②	
5	教育実習に向けての制作④	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 制作③	
6	教育実習に向けての制作⑤	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 制作④	
7	教育実習に向けての制作⑥	教育実習(幼稚園)向き自己紹介アイテム 実演・発表会	
8	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成①(7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
9	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成②(7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
10	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成③(7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
11	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成④(7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
12	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の立案と制作①	
13	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の制作②	
14	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の制作③	
15	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の制作④	
16	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の制作⑤	
17	保育教材作成	保育現場で使える保育教材「指人形・パペット」の制作⑥	
18	保育教材作成	発表会	
19	教材制作	保育現場で使える「日めくりカレンダー・当番表」の作案	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
20	教材制作	保育現場で使える「日めくりカレンダー・当番表」の制作①
21	教材制作	保育現場で使える「日めくりカレンダー・当番表」の制作②
22	教材制作	保育現場で使える「日めくりカレンダー・当番表」の制作③
23	教材制作	保育現場で使える「日めくりカレンダー・当番表」の制作④
24	レクリエーション	園行事イベントのレクリエーションの企画 グループごと作案・準備
25	レクリエーション	園行事イベントのレクリエーションの企画 教材研究・準備(グループワーク)
26	レクリエーション	発表・実演(グループワーク)①
27	レクリエーション	発表・実演(グループワーク)②
28	レクリエーション	発表・実演(グループワーク)③
29	レクリエーション	発表・実演(グループワーク)④
30	造形表現	季節(春3月)の壁面制作

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教育実習指導Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習を通して幼稚園教育を学び、幼稚園教諭に求められる専門性を知る。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教育実習の目標に向けて具体的な内容を考え準備し、実習後自己を振り返り今後の課題を明確にする	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	自己課題に取り組むことを通して、幼稚園教諭に必要な基本的資質を理解し身につけようとする。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園勤務	
使用テキスト 参考文献	「幼稚園教育実習事前・事後指導」豊岡短期大学 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業の概要 教育実習の意義①	幼稚園教諭になるために 教育実習の目標について・カリキュラム(年間計画・月案・週案・日案)について	
2	こどものあそびと環境構成	模擬保育を体験し、指導案作成について考える	
3	指導案作成①	ねらいと内容、環境構成	
4	指導案作成②	保育者の配慮	
5	指導案作成③	教材研究、指導案の見直しと修正	
6	実習準備①	模擬保育① 考察と反省	
7	実習準備②	模擬保育② 考察と反省	
8	実習準備③	模擬保育③ 考察と反省	
9	実習準備④	模擬保育④ 考察と反省	
10	実習準備⑤	模擬保育⑤ 考察と反省	
11	実習準備⑥	模擬保育⑥ 考察と反省	
12	実習準備⑦	模擬保育⑦ 考察と反省	
13	実習にむけて		
14	教育実習事後指導レポート作成	実習中の事例を通して学んだこと	
15	個性豊かな幼稚園教諭を目指して	グループワーク まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教育実習事前・事後指導		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。	
学年	2・3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	(事前)2年後期 (事後)3年前期	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	
授業回数	(事前)5回 (事後)3回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園勤務	
使用テキスト 参考文献	・教育実習事前・事後指導」(豊岡短期大学) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)		
評価方法	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	スクーリング 実習の意義と目的	・保育者としての倫理 ・実習生としての心構え	
2	スクーリング 観察の視点	・実習日誌の書き方 ・幼児理解と保育	
3	スクーリング 指導案の作成について	・指導案とは何か ・指導案作成の実際	
4	スクーリング 指導案作成	指導案発表会	
5	スクーリング 学習のまとめ	自分の「実習の目標」を作成する	
6	スクーリング 教師の役割	幼稚園教育要領解説 教師の役割	
7	スクーリング 幼児理解と学び	実習の振り返り グループ討論	
8	スクーリング 教育実習の総括	単位認定試験	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教育実習		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園の保育の実際について体験的学習をする中で、幼児理解や保育者役割・職務・内容・保育の流れを理解する。幼児の実態を把握し、教育の指導方法や指導案、環境構成を学ぶ。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教育実習本実習20日間以上、且つ160時間以上を実施する。 責任実習…部分実習1回・全日実習1回以上	
授業回数			
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:事前指導として予習課題を出します。実習先についてまとめたリインターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習:事前に配布する実習記録を用いて、その日の実習内容を整理して記述してください。		
取得単位数	4単位	幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。 子どもの実態を知り、いろいろな場面における環境構成等、それぞれに適した援助について学ぶ。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園勤務	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	実習成績評価票に基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		事前研修オリエンテーション 事前研修:ねらい…幼稚園と保育園の違いを理解し、幼稚園教諭の職務について学ぶ。 本実習に向けての目標・自己課題を明確にする。 指導案を考えるための情報収集の場とする。 本実習オリエンテーション 本実習 :20日以上、且つ160時間以上実施 ねらい…幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。 子どもの実態を知り、いろいろな場面における環境構成等、それぞれに適した援助について学ぶ。 前半10日間…観察、参加実習 後半10日間…参加実習及び、責任実習 (※責任実習…部分実習1回・全日実習1回以上、但し園の都合に合わせる。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	社会人基礎学Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	こども心理学科		
学年	3年	就職に向けた活動の実際、特に履歴書作成や面接の具体的な練習を体験する。 また、各自希望する就職先に必要な就職活動について研究する。	
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年		
授業回数	15回	就職活動の準備として、キャリア形成の考え方、就職先の選定、履歴書作成指導、面接練習等を行う。 また、内定先へのお礼状の書き方、あいさつ、事前研修へ向けての準備とする。	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	30時間2単位		
授業担当者	後藤明子	自らが望む就職先へ円滑な活動を目指す。 また、就職後のキャリア形成について考えられるようになる。	
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・配布プリント		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	授業の概要について なぜ人は働くのか、働く意味は何かについて	
2	就職活動のながれ	本校の就職活動のながれおよび指導スケジュールについて 求人票の見方 社会保険等について	
3	国語の習得	文章力・読解力を高めることを中心にした問題集に取り組む	
4			
5			
6			
7	履歴書の書き方	業界の求める志望の動機・自己PRの書き方について	
8		履歴書作成	
9			
10	面接に向けて	実際の面接を想定した面接練習(教員との個別演習・グループ演習)。	
11			
12			
13	内定後の動きについて	活動報告書の書き方。内定先へのお礼状の書き方。 内定後の研修や報告書について	
14	自己課題への アプローチ	自己課題の明確化とそれに対する取り組み	
15			

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	ゼミナールⅡ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	【専攻別】「こどものあそびと体育」「こどもとICT」「児童発達支援」3つの専攻に分かれて研究を行うこの研究を通じて、卒業後のキャリア形成の土台作りを目指したい	
学年	3年	【クラス】時事問題を通じて世の中の出来事を知り、いろいろな意見にふれることで、思考を広げる。国語力の強化を通じて、思考力を深める。	
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	【専攻別】各専攻に分かれて、研究テーマを掲げ、研究計画立案、研究を進める。定期的な振り返りを設け、最終的には、発表会を通じて、学びの集大成とする	
授業回数	120	【クラス】時事問題を学ぶことで、世の中のさまざまな出来事に目を向けることができ、視野は大きく広がっていく。自己推薦図書カードを作成し、クラスで発表する。	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	16単位	【専攻別】卒業研究を通じて「情報を収集する力」「実験の技術」「論理的思考力・課題解決力」「プレゼンテーション力」といったスキルを身につける。	
授業担当者	後藤・井上・伊藤・鈴木	【クラス】社会を理解し、自分なりの意見を持つ。読書を通じて言葉・思考・想像力を高める。	
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	随時資料提示		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
【専攻別】75コマ			
1・2	ガイダンス	それぞれの専攻に分かれたガイダンス	
3～73	研究	研究計画立案・研究・外部活動等（12/17まで） 論文の最終提出は、1月14日。 powerpointの最終提出は1月21日。	
74・75	発表	2号館マルチメディアホールにおける研究発表会	
【クラス】45コマ			
1	ガイダンス	授業ガイダンス	
2～29	時事問題 推薦図書カード作成	新聞を活用した時事問題への取り組み 自己推薦による推薦図書カード作成	
30～39	実習科内発表会及び準備	分担に分かれて発表準備および発表会	
40～45	卒業研究発表会練習	2号館マルチメディアホールにおける研究発表会の練習	

シラバスデータ			2022/4/1
科目名	就職指導		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	こども心理学科	・就職活動の準備を、学科の教育実践を踏まえた上で、行なう。 ・「人生100年時代における“キャリア自律”」について理解する。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・就職活動準備プロセスの理解：「自己理解」＋「企業・社会研究」⇒「自己強化」⇒「自己表現」 ・該当業界・分野における雇用動向の理解	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:毎回授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習:毎回授業の中で配布するプリントを用いて、その日の授業の内容を整理して記述してください。		
取得単位数	30時間2単位	・2年間学んできた保育等の知識スキルを、就職活動を通じてうまくアピールできるようにする。 ・社会人になるために必要なビジネスマナーの知識を身に着ける。	
授業担当者	原木伴美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・配布プリント ・ワークシート集		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業オリエンテーション	2年間で身に付けたことを整理しよう	
2	面接に備えよう①	面接指導に向けて志望先を決めて、企業研究をしよう	
3	面接に備えよう②	志望動機を考えよう	
4	面接に備えよう③	志望先に合った自己PRを考えよう	
5	面接に備えよう④	履歴書を書こう	
6	面接に備えよう⑤	履歴書を仕上げて、面接の準備をしよう	
7	現場を知ろう	卒業生の現場体験を聞いて、イメージを膨らめよう	
8	面接の基本を学ぼう	面接の準備と実践を通じて自信が持てるようにしよう。	
9	模擬面接をしよう	グループごと別れて、模擬面接をしよう。	
10	模擬面接をしよう	本番を想定した面接練習をしよう	
11	模擬面接をしよう	本番を想定した面接練習をしよう	
12	模擬面接をしよう	模擬面接の振り返りをして、授業での学びの定着の確認をしよう。	
13	社会人に向けて	就職先の選び方、エントリーシートの書き方について学ぼう。	
14	社会人に向けて	送付状、お礼状の書き方について学ぼう。	
15	まとめ	社会人としての心構えについて学ぼう。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	情報リテラシーと処理技術Ⅲ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	問題発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身につけ、実際に活用する力を養うとともに情報社会に倫理観を持って参画する態度を養うことを目指す。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・与えられた条件のもとで、場面に応じた技術を活用しながら問題解決を実践する。 ・実際の問題解決をプロジェクトとして、解決策の発想や合理的な判断過程を実践し、身近な問題解決を行う。	
授業回数	30回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	4単位	・マイクロソフトオフィスの基礎的な操作ができる。 ・プレゼンテーションの基本を理解し、実践力の向上を目指す。 ・情報社会におけるルールやマナーを身につける。	
授業担当者	伊藤知圭子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	配付プリント		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	コンピューターリテラシーを身につける意義	
2	ワープロソフトの基本的操作	Wordの基本的操作	
3		表を活用した文書の作成	
4			
5		画像や図形を活用した文書の作成	
6			
7	表計算ソフトの基本的操作及び、技術習得	Excelソフトの基本的操作	
8		関数を使った計算式	
9			
10		グラフの作成	
11			
12	WordとExcelの活用	WordにExcelを表を貼り付ける	
13		貼り付け方によるデータの違い	
14			
15	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションで重要なこと、概要	
16	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションのストーリー	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
17	プレゼンテーションソフトの基本的操作及び、技術習得	PowerPointソフトの基本的操作
18		文字装飾と図形、グラフ、表の活用
19		画像の挿入、背景画像の設定、テーマ、マスターの変更
20		スライドショーと資料作成
21	情報社会における法規と制度	個人情報やプライバシー、個人情報の保護や管理と関連権利について
22		
23		知的財産権の概念
24		
25		著作権、著作物の利用、著作権の侵害について
26		
27	実際に起こりうる具体的な問題を事例として、解決を図る	インターネット情報の中から正しい情報を見極める
28		
29		問題解決策をプレゼンテーションする
30		

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの視覚と発達		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもの視覚の発達と問題を理解し、保育者として寄り添い、適切に対応することを学ぶ。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・視覚の発達や小児視力の特性について学び、子どもの見え方を知る。 ・斜視などの視覚の異常について学び、保育者としての子どもへの対応の仕方を考える。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	・正常な視覚の発達を理解する。 ・弱視や斜視などの視覚の異常を知り、患児が抱える問題を理解することで保育者として必要な支援を考えることができる。	
授業担当者	鈴木　ほまれ		
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学第3版(文光堂)、視能学エキスパート視能訓練学(医学書院)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	視力の発達	・眼のしくみについて学ぶ ・小児視力の特徴と視力の発達条件について学ぶ ・年齢に合わせた視力検査の方法を体験を通して学ぶ	
2			
3	弱視	・弱視の定義と種類、原因について学ぶ ・治療(眼鏡やアイパッチなど)で小児が持つ問題について学ぶ	
4			
5	両眼視	・両眼視の種類について体験を通して学ぶ ・正常両眼視の発達とその条件について学ぶ	
6	斜視・眼振	・小児に多い斜視と眼振を学ぶ	
7			
8	定期試験	筆記試験と解答解説を行う。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの衣・食・住		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	こども心理学科	保育者には、こどもの「生きる力」を育むための環境構成する力が求められている。 その土台である家庭や日常生活を衣食住の視点から考察し、効果的な保育の展開について考える能力を養う。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	資料を用いた講義や討議、演習を通して基礎的な知識・技能を身につける。 また、学んだことを保育に活用させるため、問題解決に向けたテーマを設定し、調査・検討、内容発表し、学修成果を共有する。	
授業回数	30回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	4単位	① 衣食住や日常生活に関する知見を深める。 ② 衣食住を通して子どもの姿を捉え、多様化する生活スタイルの中で子ども自身が生活をより豊かにしようとする態度を育む保育者としての力量を高める。	
授業担当者	伊藤知圭子 井上充子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	配布プリント		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	科目の目的、ねらいを理解する	
2	演習	手縫いの基本 ボタン付け、まつり縫い等簡易な補修方法を学ぶ	
3	被服の働きと役割	人が服を着ること、子どもにとっての衣服の働きを考える	
4	演習	手縫いの基本 ボタン付け、まつり縫い等、修繕方法を学ぶ	
5	演習	ミシンの基本を学び、身近な布を材料にし、巾着袋を作る	
6	演習		
7	演習		
8	演習		
9	衣服の手入れ	衣服を長持ちさせる洗濯や手入れの仕組みを理解する	
10	演習	洗剤の活用方法を理解し、工夫して扱うことを実践する	
11	食と健康	幼児の頃から生涯の健康を見通した食事を考える意味を知る	
12	栄養と食生活	食品の栄養や調理・加工に関する性質を知り、実践に役立てる	
13	食品の特徴と調理	調理を計画し、効果的な調理技術の習得や協力することを考え実践につなげる	
14	食の衛生と安全	食品衛生管理を意識した調理の実践を考える	
15	調理実習	食品の選び方や保存の方法など、食品衛生管理を意識した調理を実践する(弁当)	
16			

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
17	調理実習	災害時の備えや効率的な調理法として、バッククッキング有用性を学ぶ
18		
19	調理実習	こどもの食育体験となる調理を計画し、実践する
20		
21	振り返り	調理実習を通して得た気づきや学びを整理する。
22		こどもとのかかわり方や指導方法について事後評価を行う。
23	安全に住まうことを考える	自然災害の対策と人為災害への注意を学ぶ
24	健康に住まうことを考える	健康に住まうための日照と採光、通風と換気、暑さと寒さ、騒音と遮音を学ぶ
25	こどもにとって安全な住まいとは	住居や地域に存在する危険や不適切環境などの課題に目を向け、課題解決の視点から考える
26		計画を立て、調査・検討を行う
27		
28		発表準備
29		発表・意見交換
30	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教育・社会研究		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	本来であれば、幼稚園教育実習再実習に挑むところであるが、様々な理由により、実習に臨むことが困難な者に対する教育・社会研究である。 本人の持ち得る能力および将来像から、就職に必要な知識・経験を積み重ねていくような履修内容を目指す。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	学内活動：自学自習による課題の取り組み 155時数(1時数：90分) 学外活動：40時数(1時数：60分) ○実習へ参加したが「不可」評価となった場合 ・履修時間については、出勤票の提出を以て履修時間の読み替えをする。 ○実習へ参加できなかった場合 ・「教育・社会研究」のシラバスに沿った自学自習および職場体験を行う。	
授業回数	授業回数：68コマ 校外実習：60時		
授業形態	講義・演習・実習		
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	5単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	後藤明子	○実習へ参加したが「不可」評価となった場合 ・卒業後の進路を踏まえ、保育に関する知識・技能の習得および検定等の取得を行い持てる力を最大限に伸ばす。 ○実習へ参加できなかった場合 ・「教育・社会研究」のシラバスに沿った自学自習および職場体験を行う。また、将来に向けて今以上に可能性を広げていけるような活動に取り組み、自らの世界を広げていく。	
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	資料・プリントを配布する。 自ら必要だと考えた参考書等は自分で準備する。		
評価方法	履修変更した者は選択科目の欄に履修変更科目の認定として「認」が記載される。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
10	子どもの発達に関する理解と研究	①乳児期～青年期の発達を学ぶ ②エリクソン・ピアジェ・ハヴィガーストの発達課題 レポート作成(PC作成)	
10	発達障害の理解	①子どもに合わせた環境の構成 ②子どもの感覚を育てる・刺激する遊び ③子どもの問題行動を改善するための視点 レポート作成(PC作成)	
10	児童発達支援の概要の理解	①自ら必要だと考えるテキストを準備する ②テキストをもとに施設の機能・役割・人材・サービス対象者および保護者支援について レポート作成(PC作成)	
10	放課後等デイサービスの概要の理解	①自ら必要だと考えるテキストを準備する ②テキストをもとに施設の機能・役割・人材・サービス対象者および保護者支援について レポート作成(PC作成)	
10	外部活動 事前事後指導	①外部活動事前指導 活動先の選定、概要調査、オリエンテーションの実施、記録について ②活動事後指導 実習を振り返って	
27.5	療育現場で使える遊びの教材研究	①教材の製作 ②実際の実演に際しての留意点の研究とまとめ	
40時間	校外活動	療育施設にて外部活動に参加(児童発達支援または放課後等デイサービス)：1単位40時間	